

# 富山県における弥生時代の墓制

青山 晃（公益財団法人富山県文化振興財団）

## はじめに

富山県内における弥生時代の墓は中期後葉以降、方形周溝墓が主要な墓制となる。その他、土坑墓・甕棺墓なども確認されるが、今回は主要な墓制となる方形周溝墓を中心に県内の様相を示しておく。

### 1 中期の様相

6遺跡で24基の方形周溝墓が確認されている（表1）。高岡市の佐野台地北部縁辺部を中心に分布する。中期の遺跡は県内各地で確認されているが、方形周溝墓の分布に片寄りがあることは、墓制採用のあり方に違いがあった可能性がある。

方形周溝墓の平面形態は周溝の四隅、もしくは1か所が切れる形態となる。石塚遺跡・石名瀬A遺跡で両者が確認されるが、形態の違いにより構築位置・方位の規範が異なる傾向がある（図1）。

規模は、長軸で最大11.7m以上、最小4.3mとなる。墳丘の面積では最小で13㎡（高島A遺跡SX01）、最大で134.6㎡以上（下黒田遺跡SZ1）となり、明確な規模の違いが存在する（グラフ1）。

集落との関係では、建物を切るように方形周溝墓が造営される例や、工房址が近接して確認される例などから、居住域と墓域とが明瞭に分離せず、隣接していたことを示す。

### 2 後期～終末期の様相

県内では後期以降も主要な墓制は方形周溝墓で、10遺跡で計99基に及ぶ（表2）。終末期にかけてはそれ以外に、四隅突出型・前方後方型の墳丘墓も確認される。

形態は方形周溝墓では四隅、もしくは数カ所の隅が途切れる形態を中心とするが、周溝1辺の中央部が切れる形態が下佐野遺跡や百塚遺跡で、前方後方墳（墳丘墓）に先行して構築される（図2）。

規模は後期における方形周溝墓では百塚遺跡SZ19が約270㎡と隔絶した規模を誇る。それ以下では150㎡前後・110～75㎡・50㎡未満の規模に分かれる。終末期には110㎡以上・84～60㎡・60㎡未満の規模に分かれる（グラフ2・3）。

集落との関係では、布目沢北遺跡では後期の居住域が終末期には墓域となる。下佐野遺跡では終末期に居住域から墓域へと変わる。南太閤山I遺跡では谷を挟んで居住域と墓域とが対峙する。千坊山遺跡群では丘陵上に位置する墓域の眼下に集落が形成される。このように、居住域から墓域へ土地利用が変わることがあるが、同時に居住域・墓域としての利用は行われず、分離された状態となる。

また、方形周溝墓は後期～終末期に県内各地で確認されるが、円形周溝墓は終末期以降、主に県東部で採用される。円形周溝墓は弥生時代前期には岡山県・香川県付近の備讃瀬戸沿岸地域に定着した後、中期以降は播磨灘沿岸を経て東方・北方に拡大し、庄内期では摂津を中心に河内・大和・京都丹波・琵琶湖沿岸地域へ分布域を広げるように、東偏傾向にあるとされる（岸本 2001）。こうした動向の中で富山県東部へ波及したとするには、今後の検討がさらに必要となろう。

## おわりに

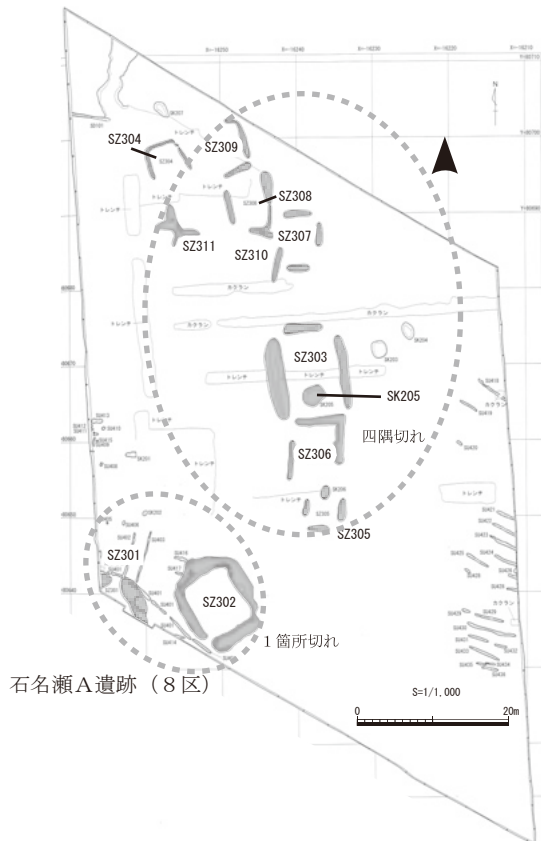
県内の弥生時代における墓制は、中期以降に方形周溝墓を中心とし、終末期には四隅突出型墳丘墓・前方後方型墳丘墓が加わる。また、県東部に円形周溝墓が確認できる。方形周溝墓の規模は各時期に複数のランクがあり、階層的な序列があった可能性を示唆している。墓域と集落との関係は、中期では近接、後期以降では分離する傾向がある。



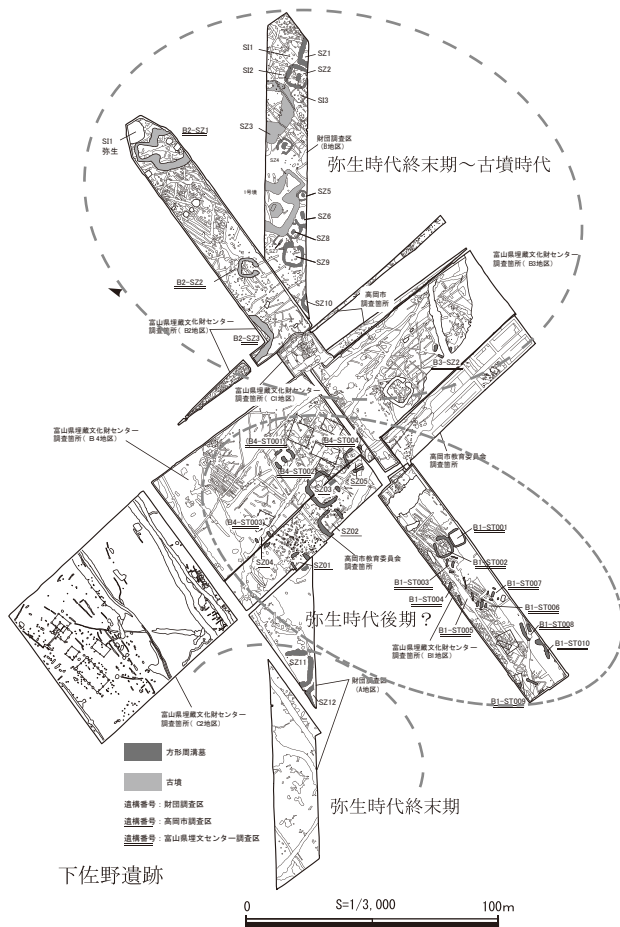
石塚遺跡（新鮮市場地区）

図1 中期の事例

※図1・2は各報告書を基に加筆・修正



石名瀬A遺跡（8区）



下佐野遺跡

図2 後期～終末期の事例



百塚遺跡・百塚住吉遺跡

所在	遺跡名	遺構	種類	規模(m)		主体部	文献
				長軸	短軸		
高岡市	下黒田	SZ1	方形周溝墓	11.7～	11.5	未確認	富山県文化振興財団 2013
		SZ2	方形周溝墓	7.7～	6.7～	未確認	
	諏訪	SZ15	方形周溝墓	—	—	未確認	高岡市教育委員会1993
		SZ40	方形周溝墓	6.7～	6.3	未確認	
	石塚	森田地区SZ04	方形周溝墓	7.2	6.3	未確認	高岡市教育委員会1995
		森田地区SZ05	方形周溝墓	4.2～	2.9	未確認	
	石名瀬A	森田地区SZ06	方形周溝墓	8.1～	4.9～	未確認	高岡市教育委員会2007
		森田地区SZ07	方形周溝墓	6.9	6.2～	未確認	
		新幹市場地区SZ01	方形周溝墓	6	5.9～	未確認	
		新幹市場地区SZ02	方形周溝墓	5.2	2.8～	未確認	
		SZ301	方形周溝墓	4.8～	2.5～	未確認	
		SZ302	方形周溝墓	8.1	6.3	未確認	
		SZ303	方形周溝墓	11.1	6.9	SK205? (3.1×2.5m)	
		SZ304	方形周溝墓	4.1～	4.1	未確認	
		SZ305	方形周溝墓	3.7	3.5	未確認	
		SZ306	方形周溝墓	5	—	未確認	
射水市	高島A	SX01	方形周溝墓	4.5	3.2	未確認	新湊市教育委員会2000
		SX02	方形周溝墓	—	—	未確認	
上市町	放士ヶ瀬北	SX02	方形周溝墓	—	—	未確認	上市町教育委員会1999

表1 富山県内弥生時代中期方形周溝墓一覧

立地	遺跡	時期	方形周溝墓	円形周溝墓	四隅突出型	前方後方型	その他	古墳時代以降	備考
丘陵	平桜川東	後期	1						
谷地	下佐野	後期	15						時期不詳の方形周溝墓1
開状地	一口跡免	後期	1	1					
開状地	布目沢北	後期	1				1:方墳(白江～京群タムビ)		
丘陵	南大開山I	後期	8				4:土坑墓 2:環状墓		
丘陵	開山	後期	4				3:土坑墓		
丘陵	一ツ山古墳群	後期	—			1?	1:前方後方型?		
丘陵	森田地区	後期	—	1					
丘陵	鏡坂遺跡群	後期	—	2					
丘陵	鏡坂遺跡群	後期	—	2					
丘陵	六谷古墳	後期	—	1					
丘陵	尚野塚	後期	—	—	1(白江式)				
丘陵	森ノ山古墳	後期	—	—	—	1:方墳(土塚?)			
丘陵	杉谷A	後期	17	1					
丘陵	百塚住吉	後期	4	—					
開状地	清水堂	後期	9	5		1(～白江式)	1:石組環状墓 2:方墳3:円墳3		
開状地	新坂	後期	1	1			19:土溝墓		
開状地	新坂	後期	8						
開状地	新坂	後期	40	0	1	1	1:後期～終末期		
開状地	新坂	後期	39	8	3	1	11		
開状地	新坂	後期	99	8	8	2	35		

表2 後期～終末期の主要遺跡毎墳墓数

参考文献

射水市教育委員会 2007『高島 A 遺跡発掘調査報告』

岡田一広 2005「富山平野における弥生墓制」『季刊考古学』第92号 雄山閣

小矢部市教育委員会 1979『富山県小矢部市 平桜川東遺跡』

鹿島昌也 2012「第Ⅵ章 総括」『富山市 百塚遺跡発掘調査報告書』富山市教育委員会

岸本一広 2001「弥生時代の低地円丘墓について」『兵庫県埋蔵文化財研究紀要』創刊号 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

上市町教育委員会・富山県埋蔵文化財センター 1981『北陸自動車道遺跡調査報告 上市町遺構編』

上市町教育委員会 1999『富山県上市町 放士ヶ瀬北遺跡発掘調査概要』

新湊市教育委員会 2000『富山県新湊市 高島 A 遺跡発掘調査概要』

高岡市教育委員会 1993『市内遺跡調査概報Ⅲ』

高岡市教育委員会 1995『石塚遺跡調査概報Ⅲ』

高岡市教育委員会 2007『石塚遺跡調査報告』

高岡市教育委員会 2011『下佐野遺跡調査報告Ⅱ』

高岡市教育委員会 2012『石名瀬 A 遺跡発掘調査報告』

富山県教育委員会 1970『開山遺跡』

富山県教育委員会 1983『都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要』

富山県教育委員会 1984『都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(2)』

富山県文化振興財団 2013『下黒田遺跡 下佐野遺跡 諏訪遺跡 蔵野町東遺跡 蔵野町遺跡 駒方南遺跡発掘調査報告』

富山県埋蔵文化財センター 1989『三谷遺跡・一ツ山古墳群』

富山県埋蔵文化財センター 2011『富山県高岡市 下佐野遺跡発掘調査報告書』

富山県埋蔵文化財センター・大門町教育委員会 1991『大門町企業団地内遺跡発掘調査報告(1)』

富山県埋蔵文化財センター・大門町教育委員会 1992『大門町企業団地内遺跡発掘調査報告(2)』

富山県教育委員会 1975『富山市 杉谷(A・G・H) 遺跡発掘調査報告書』

富山県教育委員会 2000『富山市 水橋清水堂南遺跡』

富山県教育委員会 2009『富山市 百塚住吉遺跡 百塚住吉 B 遺跡 百塚遺跡遺跡発掘調査報告書』

富山県教育委員会 2012『富山市 百塚遺跡発掘調査報告書』

豊島尚宏 2005『弥生時代の鉄製刀剣』奈良文化財研究所

婦中町教育委員会 2002『富山県婦中町 千坊山遺跡群試掘調査報告書』

